

矢作川

中流部

上流部

とうかい けいなん
～東海(恵南)豪雨から25年～
の河川整備

平成12年 東海(恵南)豪雨による被害

- 豊田市内では、上下流と比較して矢作川の川幅が約半分になる「鵜の首狭窄部」の影響もあり河川の水位の堰上げが起こり、越水したため浸水被害が発生しました。
 - 矢作川の上流域では土石流や崖崩れ等により、道路が寸断され、多くの橋梁が流失しました。
- ※東海(恵南)豪雨における矢作川水系の被害
・被災家屋：約2,800棟 ・水害区域面積：約1,800ha

★用語解説

- 狭窄部**：川幅が狭くなっている部分のことです。
- 堰上げ**：狭窄部や構造物で水が流れにくくなり、その手前側(上流側)で水位が上昇することです。
- 越水**：増水した川の水が堤防の高さを超えてあふれ出すことです。



矢作川河川改修 整備位置図と改修状況

- 平成12年東海(恵南)豪雨を踏まえて策定した「矢作川水系河川整備計画(平成21年7月)」に基づき、矢作川の早期治水安全度向上を目指し、上下流の治水安全度のバランスを見据えながら、下流部～上流部の整備を順次進めています。下流部の整備に引き続き、中流部の河道掘削や堤防整備を進めつつ、上流部の鵜の首狭窄部についても開削を段階的に進めていき、矢作川全川での治水安全度の向上を目指していきます。

★用語解説

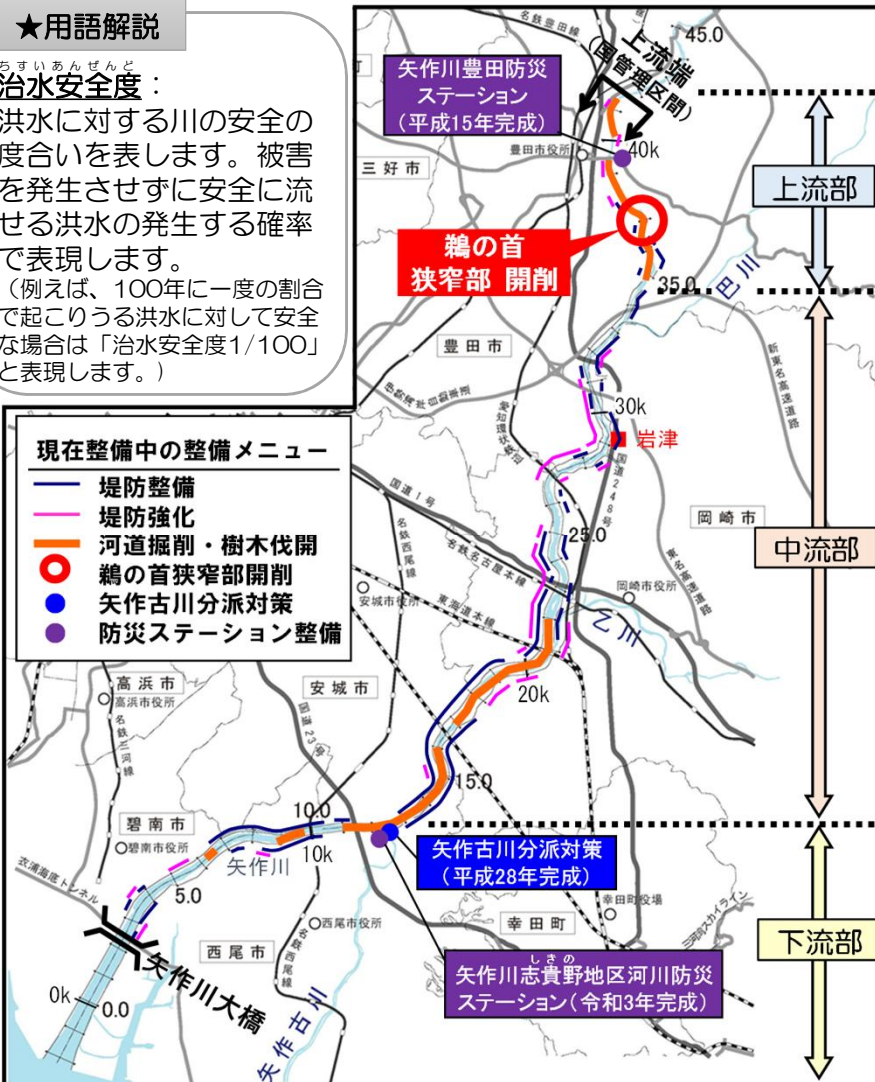
治水安全度：

洪水に対する川の安全の度合いを表します。被害を発生させずに安全に流せる洪水の発生する確率で表現します。

(例えば、100年に一度の割合で起こりうる洪水に対して安全な場合は「治水安全度1/100」と表現します。)

現在整備中の整備メニュー

- 堤防整備
- 堤防強化
- 河道掘削・樹木伐開
- 鵜の首狭窄部開削
- 矢作古川分派対策
- 防災ステーション整備



上流部

河道掘削・樹木伐開



中流部

堤防整備



下流部

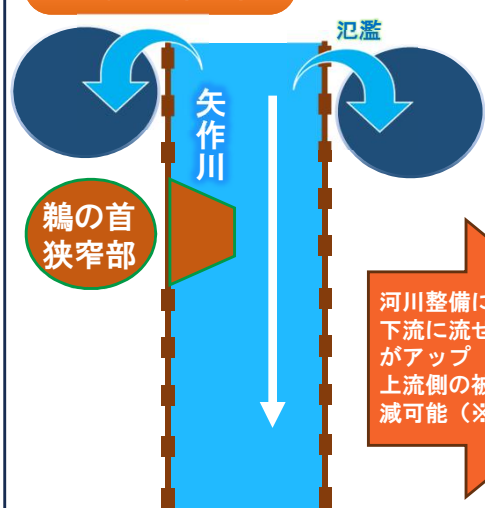
矢作古川分派対策



整備手順イメージ

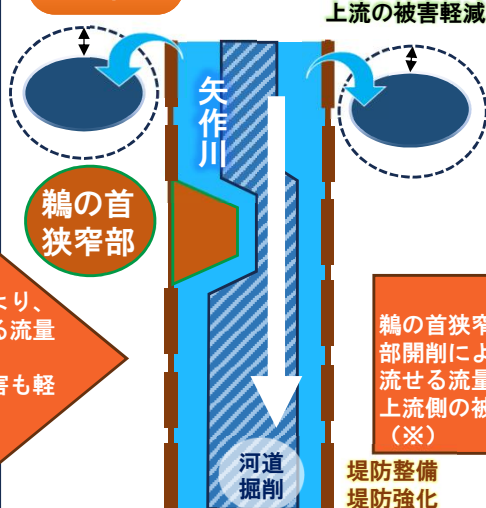
凡例 堤防整備 堤防強化 河道掘削 流下能力

整備計画着手前



河川整備により、
下流に流せる流量
がアップ
上流側の被害も軽
減可能（※）

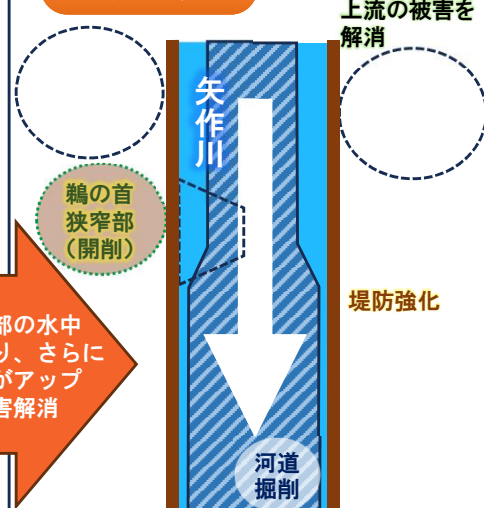
現在



上流の被害軽減

鵜の首狭窄部の水中
部開削により、さらに
流せる流量がアップ
上流側の被害解消
（※）

整備計画完了



上流の被害を
解消

堤防強化

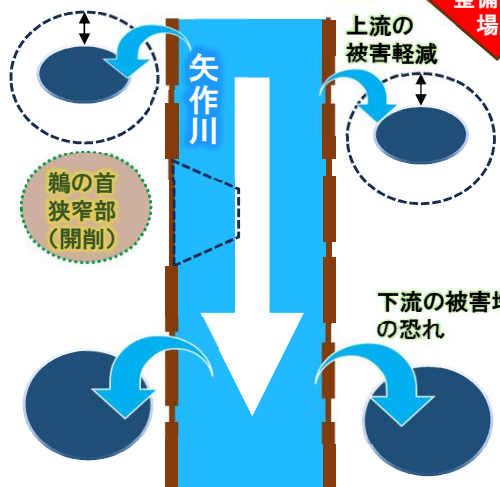
大規模な洪水が発生した場合は、鵜の首狭窄部の影響もあり堰上げが起こり、上流区間で越水が生じ浸水被害が発生する恐れがあります。

※東海（恵南）豪雨と同規模の洪水が発生した場合を想定しています。
※堤防整備、堤防強化、河道掘削は整備計画着手前にも実施しています。

中・下流部の河道掘削や堤防整備に合わせて、上流部の河道掘削等を実施し、流下能力を向上させ、被害軽減に取り組んでいます。また、中・下流部の整備と同時に下流に影響のない鵜の首狭窄部の陸上部開削 **1** を進めます。

鵜の首狭窄部の水中部開削 **2** や中・下流部の堤防整備・堤防強化により、矢作川全体の流下能力が向上し、東海（恵南）豪雨と同規模の洪水が発生しても越水による浸水被害が解消されます。

下流から整備を行わずに鵜の首狭窄部を開削した場合



下流から段階的に整備を行わずに鵜の首狭窄部の水中部開削 **2** を行くと、上流からこれまで以上の流量が下流へ流れることとなり、流量増加により下流側でも氾濫の恐れがあります。そうならないように上下流のバランスを考慮し、整備を進めています。

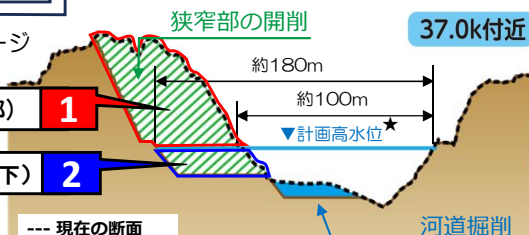
もしも
上流から
整備した
場合

鵜の首狭窄部の開削イメージ

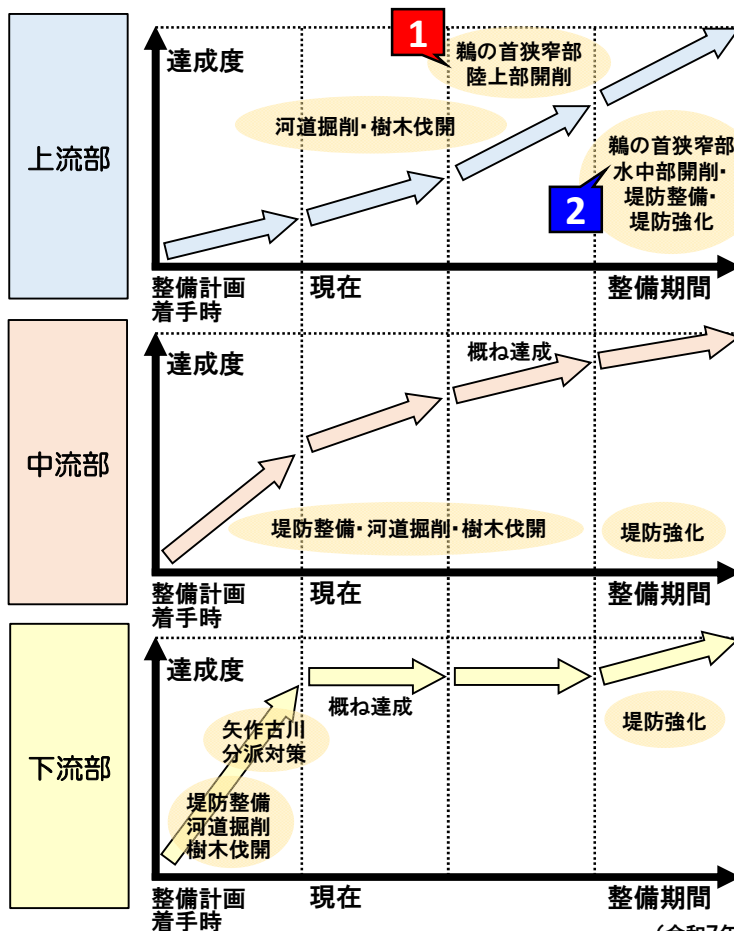
陸上部開削(水面より上部) **1**

水中部開削(計画高水位以下) **2**

※下流から見た横断面
※今後の調査・検討により変更
する場合があります。



区間ごとの整備目標達成度のイメージ(令和7年6月時点)



★用語解説

けいかくこうすい

計画高水位：堤防などの設計の基本となる水位です。この水位を上回ると、堤防が危険な状態になる恐れがあります。

お問い合わせ先



国土交通省 中部地方整備局
豊橋河川事務所
流域治水課

■住所 〒441-8149 愛知県豊橋市中野町平西1-6
■電話番号 0532-48-2111(代表)
■FAX 0532-48-8132

(令和7年6月 発行)